

経営比較分析表（令和4年度決算）

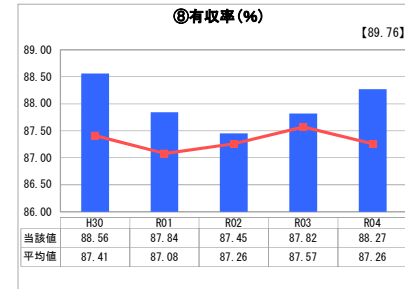
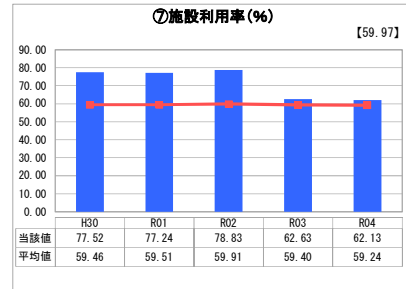
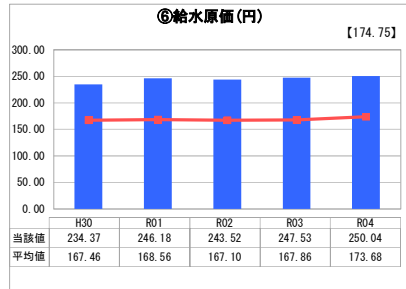
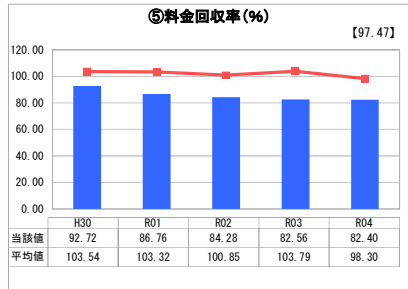
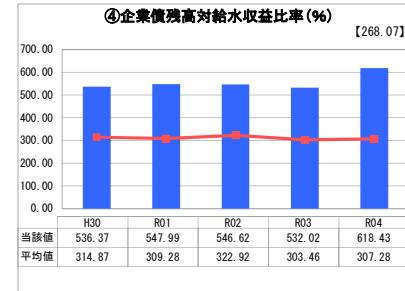
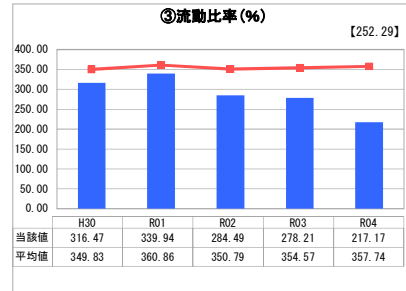
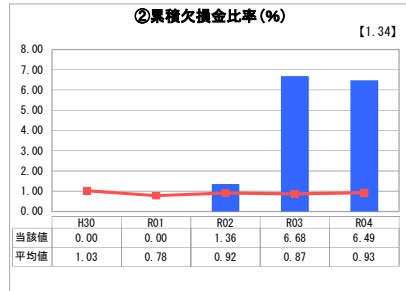
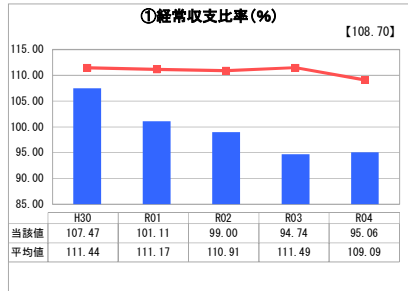
千葉県 成田市

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|--------|
| 法適用 | 水道事業 | 末端給水事業 | A4 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m ³ 当たり客席料金(円) | |
| - | 57.77 | 58.31 | 2,739 | |

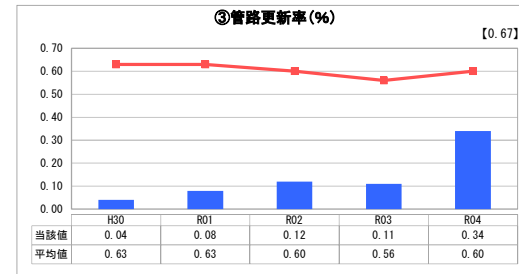
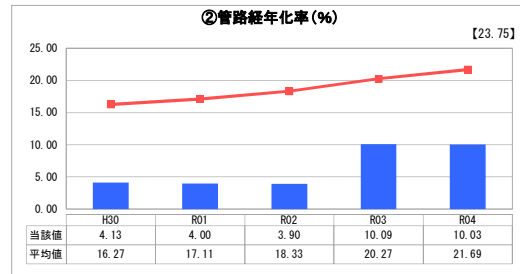
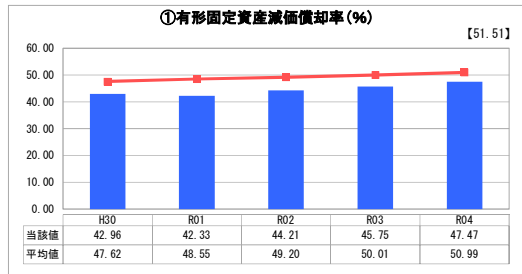
| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| 130,944 | 213.84 | 612.35 |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km ²) | 給水人口密度(人/km ²) |
| 76,475 | 26.06 | 2,934.57 |

| グラフ凡例 |
|----------------|
| ■ 当該団体値(当該値) |
| — 類似団体平均値(平均値) |
| 【】 令和4年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
100%を下回っており、収支は赤字となっている。経営改善を図り、赤字の解消に努める。

②累積欠損比率
令和2年度から欠損金が発生している。今後も厳しい経営状況が続く見込みのため、料金の見直しに着手し、経営改善を図っていく。

③流動比率
④企業債残高対給水収益比率
流動比率は200%を超えており、短期債務の支払能力を十分に有していると言える。しかしながら、企業債残高対給水収益比率は600%を超えており、これは1年間の給水収益の収入額に対して、6倍超の企業債残高となっていることを意味する。引き続き、改修工事等を実施していくための財源として、企業債を借り入れざるを得ないため、資本的収支と損益勘定留保資金とのバランスを見ながら、計画的に企業債の借り入れを行っていく必要がある。

⑤料金回収率・⑥給水原価
受水費や企業債利息、減価償却費が高額であるため、全国平均及び類似団体平均と比較して給水原価が非常に高い状況にある。給水原価が高額であるため、料金回収率は低くなっており、料金の見直しに着手し、経営改善を図っていく。

⑦施設利用率
全国平均及び類似団体平均を上回っており、保有している施設を有効に利用していると言える。

⑧有収率
類似団体平均を上回っているものの、全国平均を下回っている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
全国平均及び類似団体平均を下回っている。これは、施設や管路等の更新を計画的に行っているためである。

②管路経年率
令和3年度に法定耐用年数を経過した管が増加したことから、管路経年率が上昇しているが、過去に集中して更新を行ったことから、基幹管路を中心に管路経年率は低くなっている。

③管路更新率
管路経年率が低い水準であり比較的的老朽化が進んでいないことから、管路更新率も低い水準で推移しているが、水道事業施設更新計画に基づき計画的に管路の更新を行っており、令和4年度は数値が上昇した。

全体総括

コロナ禍の影響からの緩やかな回復により給水収益は増加したが、物価高騰の影響により経常費用も増加しており、依然として経常収支比率と料金回収率が100%を下回っている状況である。

施設や管路の老朽化は全国平均や類似団体と比較すると進んでいない状況であるが、これから耐用年数を経過する資産が増えていくことから、引き続き計画的な更新を行っていく必要がある。

このようなことから、今後も厳しい経営状況が続くため、水道事業デジコン等に基づき効率的な事業運営を行っていくとともに、料金の見直し等により経営改善を図っていく必要がある。